

特集号によせて

英語英米文学科学科長 宮 町 誠 一

本学科の20年にわたる学問的業績，教育的実績を振り返るときに，これまでの先輩諸氏のご努力に対し，深甚なる敬意と感謝の念に胸が溢れる。その貴重な資産を受け継ぎ，21世紀の英語英米文学科の未来を展望し，グローバル・コミュニケーションを基調とした国際社会の新たな要請に応えんとするとき，その重責に一人の学科構成員として，思わず自らの姿勢を正している。

数年前の *Foreign Affairs* に掲載され，世界的な関心を呼んだS・ハンチントン教授の論文「文明の衝突」が今再び世界的な関心を呼んでいる。20世紀は国家間の利害の対立が戦争という悲惨な結果を招いた。しかし，これからは，民族や宗教の違いから異文化間の対立が国際的な紛争の原因となるという分析であった。昨年来の米国とイラクの対立はその指摘が顕在化した現象の一つにすぎない。このような文化間の価値観の相違から生ずる対立や紛争は，単なる自民族優越意識に起因する無理解や誤解に加えて，異文化に対する寛容の精神の欠如がその根源的な原因となっている。

21世紀の本学英語英米文学科が担っている社会的責任は決して軽くはないし，安易なものではない。欲望をむき出しにした物質文明と閉塞状況にある経済環境，深刻化する地球規模の自然破壊に加えて，子供の行動となって突発的に顕在化する精神の荒廃。これらの現代の負の現象に共通する「痛める精神」，「乾いた魂」への知的カンフル剤が求められている。英語英米文学科に籍をおく研究者として，欧米社会の知見を集積しつつ，日本的な感性と，想像力を融合し，時代の要請に応じてゆかなければならない。この論文集に掲載された個々の研究内容は，混迷を深める国際社会の課題に，本学科の伝統を継承しつつも，21世紀の課題に対する現時点での意欲的な分析，検証，提案を提供し，そして，急激な社会変化に即した今後の研究と教育の可能性を大いに示唆しているといえる。

本学科は平成11年度，新たなカリキュラムを立ち上げ，従来の英語学，英語教育（教職），英米文化研究，英米文学研究に加え，英語コミュニケーション関連科目を補強することで，一層魅力的な教育内容を学生に提供する予定である。特に英語コミュニケーション関連科目は，従来の英語を言語研究，そして学習の対象とするばかりではなく，異文化理解を促進し，平和

な国際社会に貢献する英語の運用面に力点をおいた科目群である。

新たな20年を目指すにあたり、これからの地球社会、情報社会における共通のコミュニケーションの手段である英語という言語を、今後も研究と教育の共通の手段と目的であること再度確認している。また、異文化との価値観の対立を緩和し、相互理解を基盤としたグローバル・コミュニティの創造に貢献しうる人材の育成を目指し、個別の専門教育の充実と英語コミュニケーション技能の向上に、一層の情熱と努力を傾注することを学科構成員一人一人がそれぞれの専門分野で再確認している。本学科と縁浅からぬ先輩諸氏の一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

末尾となって恐縮であるが、本学科の教育の充実に特段のご協力を頂き、また、今回の記念論文集の発刊にあたり、貴重な論文をご寄稿頂いた関西学院大学社会学部教授八木克正先生、本学非常勤講師の青木暢先生には特に感謝申し上げます。また、この記念論文集の編集の労をとって頂いた岩城禮三先生のご苦勞とご配慮に対しここに記して感謝申し上げます。